

DMR-UBZ1 による DVD 鑑賞(7)

1. はじめに

前報(6)に引き続き、手持ちの DVD を聴いていきます。

2. DMR-UBZ1 による DVD 再生方法

前報(1)と同様の再生経路です。

今回は、下記の DVD ソフトを視聴します。

Deutsche Grammophon UCBG 1218

ガブリエリ 第9 旋法による 12 声のカンツォーナ

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲第3 番

ドボルザーク 交響曲第9 番

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

グスターボ・ドダメル指揮シュトゥットガルト放送交響楽団

ヴァチカンパウロ 5 世記念講堂収録 (Live)

Deutsche Grammophon UCBG 1176/7

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲第1 番・第2 番・第3 番・第4 番・第5 番

アンネ・ゾフィー・ムター (ヴァイオリン)

カメラータザルツブルグ

ザルツブルグ市内収録 (Live)

3. DMR-UBZ1 による DVD 再生結果

Deutsche Grammophon UCBC 1218 は、教皇ベネディクト 16 世バースデイコンサートのライブ収録で教皇や枢機卿達も聴衆に加わっています。

ガブリエリの第9 旋法による 12 声のカンツォーナは金管が左右に分かれて掛け合いのような演奏を繰り広げます。

モーツアルトのヴァイオリン協奏曲第3 番は、ヒラリー・ハーンが透明度の高い音色で清新な演奏を聴かせてくれます。

ドボルザークの交響曲第9 番は、ドダメルの熱っぽい指揮でダイナミックな演奏です。収録場所は、コンサートホールでなく、だだ広い講堂のようで、聴衆も通常のコンサートより数倍多いのではないかと思われる条件下での演奏ですので、音響的には必ずしも良い条件ではありません。なお、開演に先立ち、祝辞と終演後の教皇のお言葉がありました。

Deutsche Grammophon UCBC 1176/7 では、ムターが弾き振りを務めています。ヴァイ

オリン協奏曲の第1番から第5番まで、すべて馴染みの曲ばかりです。ムターのヴァイオリンも、特徴的なヴィブラートと聴かせた、鮮やかなボウイングですし、カメラータザルツブルグも柔らかな音色でムターとの息もぴったりです。

クレジットによれば、カデンツァは次のとおりで、曲ごとに聴かせどころのカデンツァを替えています。

ヴァイオリン協奏曲第1番 ハンス・ジット

ヴァイオリン協奏曲第2番 ジノ・フランチェスカッティ

ヴァイオリン協奏曲第3番 サム・フランコ

ヴァイオリン協奏曲第4番 ヨーゼフ・ヨアヒム

ヴァイオリン協奏曲第5番 ヨーゼフ・ヨアヒム、オシップ・シュニルリン新版

4. まとめ

ともにライブ収録で、収録条件は違いがライブの雰囲気に影響していますが、演奏はそれぞれレベルの高いものです。

以上